



共に生きる 住工共生のまち

～ 高津ものまちづくり会・高津区役所 ～



高津区と下野毛、久地・宇奈根とものづくり

高津区とものづくり

高津区と近隣地域を結び鉄道網が充実（昭和2年に南武線の登戸・川崎間開通、玉川線が溝の口まで延伸）した頃から、高津区には工場が増えてきます。こうした工場は戦争の影響で軍関係の仕事が中心になっていきますが、戦後には民生品を生産する工場として再興し、その中から大企業も生まれてきます。

東京オリンピックが終わり第三京浜が開通した昭和40年頃になると、町工場がたくさん立地してきます。中で

も、下野毛、久地・宇奈根には多くの町工場ができました。当時は果樹園や砂利採掘場がほとんどで住宅はあまり建っていなかったため多くの町工場が集まってきたわけですが、当時は商店をはじめとする町の賑わいはもちろんのこと、町を支えるインフラもありませんでした。そこで道路や上・下水道の整備にも町工場の人たちが関わってきました。こうした時代を経て、この2つの地域の今日の賑わいはつくられたのです。

▶下野毛

地元・東高津小学校の校章に桃が描かれているように、もともとは果樹園の多い農村でした。昭和30年代にはいると、キヤノン、クノール、名糖など大手企業の工場や社員寮、福利厚生施設が建設されます。また川崎で人口が急増したのをうけ、県や市は公営住宅の建設を市内各地で進め、下野毛にも公営住宅が建設されていきます。しかし、その当時もまだまだ果樹園や畑が多く残る地域でした。そこで昭和40年頃になると、町工場が多く集まってきます。大手企業の施設や公営住宅の間に、1階が工場、2階が住宅といった住宅併設町工場が建設されて地域は賑わうようになり、商店も開業していきました。

町工場が増えてきたのを受けて、昭和49年に今日の「下野毛工業協同組合」が設立されます。下野毛では、金属（鉄、アルミニウム、超硬合金ほか）を削ったり曲げたりして、いろんな機械の部品を作っている町工場が比較的多いので

す。一般家庭で目にする製品を作っていないためわかりにくいのですが、下野毛の町工場が部品を作らないと完成しない製品は、自動車エンジン、エレベーター、同軸ケーブルなど多岐にわたります。



提供：秀英堂紙工印刷（昭和45年頃 撮影）

▶久地・宇奈根

梅林の景勝地として有名で、かつては高津駅から多くの人があいってきたそうです。果樹栽培中心の農村で、首都圏で道路やビルを建設するために戦後には砂利の採掘も盛んになりました。このため多くの場所に窪地ができました。

昭和30年代の後半になると、旭ダイヤモンド、葵精機といった比較的大きな工場が移転してきます。下野毛同様に果樹園や畑、砂利採掘場が多く残る地域のため、工場を建てる場所がありましたので、その後小さな町工場も多数集まってきますが、久地・宇奈根特有の問題に直面します。下野毛では大企業や公営住宅が先に立地しており地域のインフラは整備されていましたが、久地・宇奈根では町工場が増えるまでは手つかずに近い状況でした。例えば、宇奈根では道幅が狭く雨が降るとたびたび冠水していました。そこで地域の町工場が集まり、昭和46年に「道路拡張上下水道促進連盟」が結成され、町工場も一部資金を負担してインフラの整備を進めていきます。当時の団結が今日の「川崎北工業会」につな

がっています。

久地・宇奈根でも、金属を削ったり曲げたりしているいろんな機械の部品を作る町工場が多い一方で、独自の製品もしくは特殊部品を生産する町工場も約3割を占めます。このため下野毛より広めの工場が多くなっています。



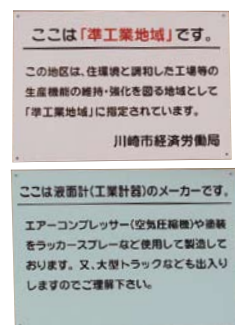
提供：葵精機（昭和36年多摩川から撮影）



下野毛の町並み(平成27年撮影)



久地・宇奈根の町並み(平成27年撮影)



準工業地域を示す案内

上の写真を見ていただくとわかるように、下野毛と久地・宇奈根には、限られた地域の中に工場と住宅が混在しています。準工業地域である下野毛、久地・宇奈根には、工場も住宅も建設することができますので、最近では工場より住宅が目立ってきています。

左頁でお伝えしたとおり、町工場の先人たちがこれらの地域を発展させてきました。現在でも下野毛に142社、久地・宇奈根に181社の町工場が操業していますが(経済センサス

2012)、これからは新しく引っ越して来られた方を含めた地域にお住まいのみなさんと町工場が手をとりあって、下野毛、久地・宇奈根らしいまち、すなわち「ものまち」を創造していく時代であると多くの町工場は考えています。そこで、地域の方々と交流を深めるべく、数年前から地元の公園でお祭りを開催しています。また、地元小学校などの工場見学も積極的に受け入れています。

下野毛工業協同組合 下野毛ふれあいフェスタ 小学生工場見学

毎年10月下旬に下野毛2丁目公園で開催しています。東高津小学校、宮内小学校などの工場見学も受け入れています。



(C)KAWASAKI FRONTALE

一般社団法人川崎北工業会 納涼祭 小学生工場見学

毎年8月下旬に久地梅林公園で開催しています。高津小学校などの工場見学も受け入れています。



いろんな製品が製造されるからこそ我々は便利な生活を送れます。高津区はこうしたものづくりを担う町工場が集い活躍してきた地域です。そこで、こうした町工場の活躍を、高津区に住んでいる方々にこそ知っていただこうと『高津もの

まちづくり会』が平成24年に結成されました。メンバーは下野毛、久地・宇奈根地域の工業会に、川崎フロンターレ、専修大学経済学部遠山ゼミが加わり、高津区役所との協働により活動しています。

平成26年10月25日に開催した第2回川崎北工業会オープンファクトリーは、天候にも恵まれ、老若男女、多くの人に来ていただき大盛況におわりました。平成25年の第1回と同様に町工場を開ける時間割りを定めた事前予約制としま

した。あわせてスタンプラリーを実施し、2か所以上の町工場を回った人には、久地の町工場が製造した「ふるん太くん」のストラップをプレゼントしました。小さなお子さんにも楽しんでもらうことが出来ました。

オープンファクトリーとは・・・

川崎北工業会の立地する久地・宇奈根は、右頁の下野毛と同様に「準工業地域」に指定されています。「工業」という名称が入っているようにもともと町工場が多い地域ですが、工場以外にも様々な用途の建物を建設することが可能なため、近年は一般の住宅も増えてきています。そこで、特に新しく近所に引っ越してきた方々に普段見学のできない工場を開放してものづくりの現場を見てもらう活動を原則年1回実施しています。

2回のオープンファクトリーを通して、参加いただいた方々に様々なご意見を頂きました。ありがとうございました。貴重なご意見を参考にさせていただき、オープンファクトリー開催の趣旨のとおり、参加していただく方々によりわかりやすく、また楽しんでいただける企画を検討していま

す。第3回川崎北工業会オープンファクトリーは平成28年6月に開催する予定です。詳細が決まりましたら、ポスターや組合のホームページでご案内します。第1・2回に参加されていない方も、是非お気軽にご参加ください。

第1・2回川崎北工業会オープンファクトリー参加・協力企業一覧(五十音順)

- ・葵精機
- ・アルファメディア
- ・光洲産業
- ・タカツ印刷
- ・津田山製作所
- ・テックス
- ・東京メタル
- ・ニクニ
- ・早川製作所
- ・BBAカンパニー
- ・ヒラミヤ
- ・ポニークリーニング
- ・和興計測



(C)KAWASAKI FRONTALE



(株)和興計測

液面計やフロートスイッチなどの水位の高さを測る機械の製作を得意としています。製品は主に燃料や水量を測るために石油コンビナートや水力発電所などで、使われています。高い技術をもった社員が大勢いる和興計測では、製品の設計・加工・組み立てのすべてを自社で行っています。一方、いろんな部品の製造を近隣の町工場に頼んでいます。地域全体で和興計測の製品は作られているのです。



下野毛工業協同組合

平成27年2月8日に開催した第2回下野毛工業協同組合オープンファクトリーでは、あえて企業ごとの開催時間や定員を定めず、自由に参加していただけるようにしました。当日は気温が低く冷たい雨が降っていたにも関わらず、述べ

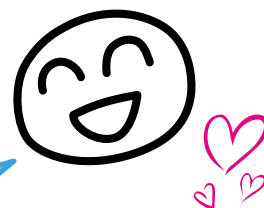
500人以上の方々がオープンファクトリーに足を運んでくださいました。

第3回下野毛工業協同組合オープンファクトリーは平成28年2月7日（日）に開催予定です。

オープンファクトリーの何が良かった？

オープンファクトリーでは工場見学に来てくださった方にアンケートを実施し、感想を書いていただきました。「オープンファクトリーってよくわからない!」という方のために、寄せられた感想の一部を紹介します。

- ・外からしか見たことのなかった工場の中に入ることができて新鮮だった!
- ・普段、工場で何をしているのか知らなかったけれど、実際に作っている製品を間近で見ることができて嬉しかった!
- ・大きな機械が動いていて、カッコよかった!
- ・自分の手で実際に製品に触れたし、ものづくりを体験出来て楽しかった!…etc



皆さん思い思いに楽しんでくださったようで、前向きな意見をたくさん頂きました。「近くにあるけど、何を作っているのかよくわからない」という思いが少しずつでも解消され、地域の工場と住民の方々との距離がもっと縮まっていくようこれからも様々なイベントを開催していきたいと思えます。

第1・2回下野毛工業協同組合オープンファクトリー参加・協力企業一覧(五十音順)

- ・相幸精機 ・飯村製作所 ・池田屋 ・上田製作所 ・大脇金型製作所 ・上代工業 ・今野工業 ・桜井製作所 ・佐々木工機
- ・三起社 ・三立産業 ・シブヤ ・秀英堂紙工印刷 ・トワダ ・日公精機製作所 ・パーツ企業 ・ハンザワ製作所 ・山口精機



今野工業(株)

ヘラ絞り加工と呼ばれる金属加工が得意な企業です。ヘラ絞り加工とは、造りたい形の型を高速回転させたものに、金属の板を押し当てて変形させ形を作っていく加工技術のことです。主に化学機械部品や照明器具などを製造していますが、ロケットの先端部分のカーブ形状の部品に使われることもあります。今野工業には川崎マイスターと呼ばれる高い技術を持った職人さんもいます。

ものづくり フェア in 等々力

ものづくりフェアは、川崎フロンターレのホームゲームで平成25年から毎年1回開催されています。平成27年5月には、高津ものまちづくり会で、廃材市場やイニシャル刻印入れ体験、レーザーマーカ一名前入れ体験などのブースを運営しました。

その中でも廃材市場では、廃材を通して町工場でどのような材料をつかって製品を作っているのかをテントの中で実感していただくとともに、どんな町工場がどのような製造をしているか、高津区にはいかに町工場が多いかを、テントの周りのパネル（右頁をご覧ください）を通して理解していただきました。

川崎フロンターレのオフィシャルウェブサイト・フロンターレ日記に、ものづくりフェアの記載がありますのでぜひご覧ください。

URL : <http://www.frontale.co.jp/diary/2015/0514.html>



廃材市場



オリジナル小瓶(例)



イニシャル刻印入れ体験



レーザーマーカ一名前入れ体験

テント周辺のパネルを理解してクイズに正解すると、空の小瓶がもらえ、その中に廃材を詰めてオリジナル小瓶を作ることができます。プラモデルなどの外枠でよくみるプラスチックの端材、配線の周りを覆っているビニール、金属を削った際に出る切粉を自由に詰めてもらいました。

高津ものまちづくり会では、溝口駅前にある「てくのかわさき」で毎年2月に行われる「てくのまつり」に、平成25年から毎年出展しています。

町工場ごとにブースを設営し、専修大学遠山ゼミの学生が、小学生にもわかるように説明します。町工場によるモノづくり体験コーナーも設置し、平成27年2月は製本体験にも挑戦してもらいました。



ものまち プラザ

パネル展示

以下のパネルは、専修大学遠山ゼミの学生が実際に町工場を訪問して作成したものです。町工場の製品や機械などを写真を使って説明しています。オープンファクトリー、ものづくりフェア、ものまぢプラザの際に展示しています。工業に詳しくない学生の目線で、町工場でどんな製品をつくっているのか、どんな製造工程が必要なのかなどを説明していますので、見かけたらぜひ読んでください。



ものづくりフェア・廃材市場テントでの展示



「高津ものまぢづくり会」とは？

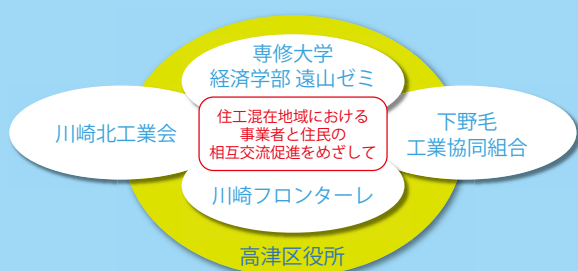
高津区内の準工業地域では、昨今、工業跡地における戸建住宅の建設が進む等、工場と住宅が複雑に入り組んだ住工混在状況が発生しています。これまで京浜地域のモノづくり基盤を担ってきた町工場を中心とする地域の工業会では、地域住民の方々との相互理解を深めていくことが重要と考え、これまで祭りの開催や小学校の社会見学の受入を行ってきました。

「高津ものまぢづくり会」は、さらに広く地域住民の方々に理解を深めていただくことを目的に発足しました。地域の工業会を中心として、地域に愛される川崎フロンターレの協力を得るとともに、専修大学生の視点からのわかりやすい情報発信を行い、高津区役所との協働によって、日本のものづくりを支える川崎の中小製造業を多くの方々に知っていただく活動を行っています。

平成24年夏までの活動

川崎北工業会	下野毛工業協同組合	専修大学経済学部 遠山ゼミナール	川崎フロンターレ
<ul style="list-style-type: none"> ○納涼祭の開催(8月) ○社会見学の受入等 高津小学校・向丘中学校 向の丘工業高校・久地小学校 バザー協力 	<ul style="list-style-type: none"> ○下野毛ふれあいフェスタの開催(10月) ○社会見学の受入等 東高津中学校 川崎総合科学高校 町内清掃活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○シンポジウム「メイドイン川崎—数十人から世界へ」&「川崎産業研究」編纂 学生17人で2地区24社の調査及び発表 川崎の中小製造業について論文執筆及び学会発表 ○てくのまつり「ものまぢプラザ」への出展 	<ul style="list-style-type: none"> ○等々力陸上競技場にて「CC等々力 エコ暮らしフェア」の開催 地元企業の活動紹介等、大型イベントの企画運営 ○てくのまつり・川崎北工業会納涼祭等、高津区内イベントに多数参加

平成24年11月「高津ものまぢづくり会」結成



【執行メンバー】

- 会長 遠山 浩(専修大学経済学部教授)
- 副会長 佐々木政仁(下野毛工業協同組合副理事長/佐々木工機(株)代表取締役)
- 会計 五十嵐 崇(川崎北工業会理事/(株)和興計測代表取締役)
- 杉本 亮((株)川崎フロンターレサッカー事業部プロモーション部)
- 今野 辰裕(下野毛工業協同組合副理事長/今野工業(株)代表取締役)
- 内川 竜太(川崎北工業会会員/(有)早川製作所代表取締役)

川崎は工業の町って言われるよね。
では川崎の中で工場はどこに建っている
のでしょうか？

下の表をみると、川崎市には 3,386 の工場があり、その 27%は川崎区に立地しています。海の方に行くと広大な埋立地があって、大きな石油コンビナートとかいろんな工場が建っているのを見たことがあると思います。

さらによくみると、川崎区の次に工場の数が多い区は高津区であることがわかります。工場以外にもたくさんの会社がありますが、高津区は会社の中で工場の占める割合が 13.2%と高く、川崎市の中でも工場の多い町なのです。

では、高津区の中で工場はどこにあるのでしょうか。高津区には埋立地のような広い場所はありません。高津区には『町工場』と呼ばれる小さな工場が、みんなの家の近くで数多く活躍しているのです。高津区の中でも、久地・宇奈根、下野毛の2つの地域は、たくさんの『町工場』が頑張っている地域なのです。



(C)KAWASAKI FRONTALE

川崎市の工場はどこにあるの？

区分	工場の数	全ての会社に占める割合
川崎市合計	3,386 (100.0)	(8.3)
川崎区	918 (27.1)	(8.3)
幸区	372 (11.0)	(8.0)
中原区	619 (18.3)	(9.0)
高津区	769 (22.7)	(13.2)
宮前区	312 (9.2)	(7.5)
多摩区	232 (6.9)	(4.7)
麻生区	164 (4.8)	(4.7)

高津区の工場はどこにあるの？

区分	工場の数	全ての会社に占める割合
高津区合計	769 (100.0)	(13.2)
久地・宇奈根	181 (23.5)	(39.0)
下野毛	142 (18.5)	(70.3)

出所：経済センサス 2012

